

「村上春樹の小説の女性登場人物を一種の象徴として読めるか？」

カレル大学院生

ユルコビチ・トマーシュ

日本文学

本発表で、村上春樹の長編小説とその登場人物、その中また、男女関係という中心的な村上春樹のテーマの一部になった、繰り返して登場する「謎の女」という人物が論じられている。その女性人物が、ある種の象徴として読めるか？読めるなら、その意味は何である？

村上春樹の小説に置ける男女関係を、まず、固定した役割のある、繰り返して登場する人物の構造として考え、その構造の一つの部分として、「謎の女」役割も、解析してみた。

その結果として、村上春樹の様々な長編小説をある意味で統一した「メタストーリー」の構造を発見し、そのメタストーリーを「英雄が問題を解決し／英雄が暴力に会って／成長する」として定義し、「謎の女」を、分析心理学の「永遠の少女」という原型として定義した。

なお、結局、「謎の女／永遠の少女」という人物を、歴史的、仏教的、心理学的などの様々な文脈から見ると、村上の長編小説を教育小説として特徴付け、なぞの女という人物を、村上春樹が見た現在日本の心理状況の象徴として解析できると思われる。